

■ICT(スマート農業)について、構成員に若い人が少ないのでうまく扱えるか難しいところがあるが、データを採取して次世代へ残していくことができるので非常に興味がある。今後も何か情報があったら教えてほしい。

J A

管内でもICTを導入しているところがある。ICTを利用した農業機械が各メーカーからラインナップされているが、比較的高価格なこともあり、採算性についてはよく考慮していく必要がある。次世代へのデータ蓄積には有用であるので、ぜひ検討してみしてほしい。

■場所によって土質が違う。気軽にJ Aで土壌分析診断ができる環境作りをお願いしたい。

J A

pHなど簡易的なものはJ Aでもできるが、細かく専門的なものは外部に依頼することになる。地域内のある程度の圃場を抽出して図面とともに結果をデータ化していき、後世に残せるような土壌データ作りをしてはどうか。

■ハウスの水はけが悪く、困っている。

J A

基盤整備を進めるなかで排水対策を行い、ハウスの周りを整備しているが、その許容を超える水量があった可能性がある。現場を確認して、対応策を検討する。

■山と川に囲まれた比較的規模の小さい地域。支店に行っても営農についてわかる職員がいないので、営農技術のある職員を支店に常時配置できるような体制作りに取り組んでほしい。

J A

職員人数には限りがあるため、季節的・時期的な配置も考えて参考にしたい。併せて、職員教育についても対策していきたい。



■組織内の人手不足が悩み。圃場を見て回るのも大変なので、営農指導員の巡回強化をお願いしたい。

■正規従業員は3人で、残りはパート従業員。パートのなかには高齢者や女性も多く、それぞれの用事などが重なって人員や機械をフル動員できるときが少ないので、作業スケジュールに余裕がない。J Aには細かい部分の指導もお願いすると思うが、快く引き受けてくれると嬉しい。

■台風などの自然災害の被害を受けたが、J Aの担当者の指導や市場対応が早かったおかげで、被害の拡大を抑えることができたと思う。

J A

県内のJ Aで、「無料職業紹介所」を設けて農家と働き手のマッチングに取り組んでいるところがある。他J Aの取り組みも参考に对应していくとともに、さらなる職員の育成にも力を入れていき、担い手支援の充実を図る。



■労働力が足りず、面積の拡大に踏み切れない。若い生産者を増やして産地を盛り上げるためにはただ就農者を待っているだけではいけないと感じており、どうすれば担い手農家が増えるかJ Aにも対策を考えてもらいたい。

J A

生活できるほどの収入がないと新規就農者の確保は難しくなるので、農業所得の増大に努めたい。秋田市園芸振興センターでの研修を終えた卒業生が農業法人に雇用されるケースもあり、関係各所と協力しながら検討していきたい。

